

柔道競技実施要項

- 1 主 催 都城工業高等専門学校
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟
- 2 大会期日 令和元年6月29日（土）・・・団体試合
30日（日）・・・個人試合
- 3 大会会場 早水公園体育文化センター 武道場
- 4 チーム人員 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手7名以内、計10名以内とする。
ただし、個人試合においては、前記以外の選手を出場させることができる。
- 5 競技規定 (1) 「国際柔道連盟試合審判規定」による。
(2) 「優勢勝ち」の判定基準について
① 団体試合は、「技有」または「僅差」以上とする。
団体戦での「僅差」は「指導差が2」以上とし、「技の内容」と「僅差」の重みを次の項目順とする。一本勝 = 反則勝 > 技有 > 僅差
② 団体試合の代表戦及び個人試合は、「技有」以上とする。
得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式で勝敗を決する。
(3) 関節技において、その効果があると認めるとき、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。但し、絞技においては、見込みによる判定を行わない。
(4) 団体試合の代表戦及び個人試合において、両試合者が「累積による同時反則負け」の場合は、ゴールデンスコア方式で勝敗を決する。
(5) 試合時間は、団体試合、個人試合とも4分とする。
- 6 競技方法
(1) 団体試合
ア 9チームを3ブロックに分け、予選リーグを行い、各1位の3チームにより決勝リーグを行う。
イ 前年度の決勝リーグ戦の成績によって、第1位チームをAブロック、第2位チームをBブロック、3位チームをCブロックにシードする。
ウ 決勝は各ブロックの1位によるリーグ戦で行う。（組み合わせは抽選による。）
エ 試合は各チーム5名の点取り試合方式で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
オ リーグ戦の順位の設定は次による。
(ア) リーグ戦におけるチーム対チームの勝敗は次による。
① 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
② ①で同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
③ ②で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
④ ③で同数の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
⑤ ④で同等の場合は、引き分けとする。
(イ) リーグ戦の順位は、2勝・1勝1分・1勝1敗・2分・1分1敗・2敗の順とする。
(ウ) (イ) で同等の場合は、リーグ戦を通じ勝ち数の多いチームを上位とする。
(エ) (ウ) で勝ち数の同じ場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを上位とする。
(オ) (エ) で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを上位とする。

- (カ) (オ) で同数の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを上位とする。
- (キ) (カ) で同等の場合は、負け数の少ないチームを上位とする。
- (ク) (キ) で同等の場合は、「一本」による負け数の少ないチームを上位とする。
- (ケ) (ク) で同等の場合は、「技有」による負け数の少ないチームを上位とする。
- (コ) (ケ) で同数の場合は、「僅差」による負け数の少ないチームを上位とする。
- (サ) (コ) で同等の場合は、代表戦を行う。

(2) 個人試合

ア 【男子】

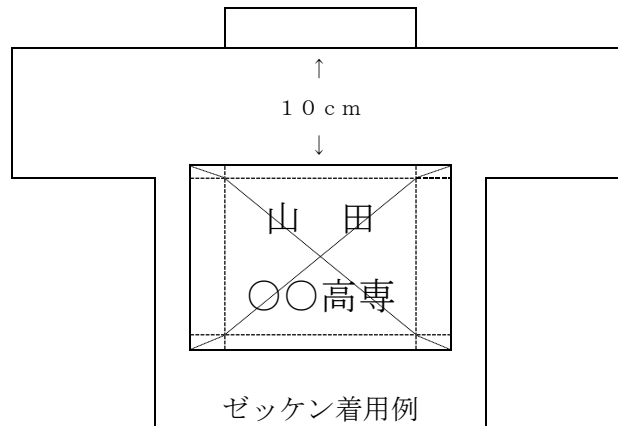
- (ア) 出場選手は、60kg級、73kg級、90kg級、90kg超級ともに各校2名以内とする。
- (イ) 各級別にトーナメント戦とし、3位決定戦は行わない。
- (ウ) 個人試合の組合せは、監督会議で抽選を行う。
- (エ) 個人試合は、シード制を設ける。
 - ① シードされるのは、前年度1位から3位の4人とする。
 - ② シード権があっても、階級を変えるとシード権は消える。
- (オ) 計量は、団体戦終了後に会場において厳正に行う。(計量の開始時刻は、監督会議において決定する。) 定められた時間内に計量を受けなかった者及び規定の計量に合格しなかった者は失格とする。

イ 【女子】

- (ア) 出場選手は、48kg級、52kg級、63kg級、無差別級ともに各校2名以内とする。
- 以下 (イ) ~ (オ) については男子に同じ

7 注意事項・その他

- (1) 団体試合におけるオーダー用紙の提出は、各試合とも開始15分前とする。オーダーは登録選手7名の枠内において各試合ごとに組替えてよい。ただし、定められた時刻までにオーダーの提出がなかった場合は、前試合と同じオーダーでもって試合を行わなければならない。また、連続して試合に出場する場合に限り、前試合終了後直ちに提出すればよいことにする。
- (2) エントリー変更は、不慮の事故、負傷のために出場できなくなった場合に、監督会議に申し出て承認を得るものとする。また、入学試験、就職試験、インターンシップ等の学生の不可抗力により出場できなくなった場合については、監督会議開催日の1週間前までに当番校に申し出を行うとともに、監督会議にて承認を得るものとする。なお、エントリーの変更にあたっては、医師又は学校長の証明を添付のうえ申し出を行うものとし、監督会議にて審議を行う。
- (3) 柔道衣の検査を試合前に行う。違反者は着替えることとする。
- (4) 選手は、上衣の左胸部にハガキ大(10×15cm)の校名、背部に全日本柔道連盟規定のゼッケン(縦25cm、横32cmの白布地に姓・校名を横書きしたもの)をつける。



- (5) 全日本柔道連盟登録記録コピーを持参する。
- (6) 試合中の負傷については、大会本部で応急処置を施すが、その後の処置は当該校で行うこと。但し、脳振盪・皮膚真菌症（トングランス）に関しては次のとおりとする。
- <脳振盪における扱い>
- ア 大会1ヶ月前に脳振盪を受傷した者は脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
 - イ 大会中、脳振盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。（なお、至急専門医（脳神経外科）の精査を受けること）
 - ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - エ 当該選手の指導者は、大会事務局（公財）全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- <皮膚真菌症（トングランス）における扱い>
- 皮膚真菌症（トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関に於いて、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。疑わしい場合には大会長に申告の上、指示を仰ぐこととする。
- (7) 大会参加に際して提供される個人情報、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません